

「鯨っ子学習」第6学年実践記録

指導者 矢川 亮太

1 実践の概要

本校では、「社会で生きて働く資質・能力の育成」という研究主題のもと、各教科等で身に付けた資質・能力を教科横断的に発揮する場として、総合的な学習の時間において「鯨っ子学習」を位置付けている。「鯨っ子学習」とは、学級で共通のテーマを設けるのではなく、子供たち一人一人が自身の興味・関心から課題を設定し、探究的に学習を進めるものであり、年間70時間の内、15時間を配当している。ここでは、第6学年を対象に実践した「鯨っ子学習」の実際について検証していく。

2 実践の詳細

(1) 課題の設定

まずは、児童自身に「鯨っ子学習」についての見通しをもたせるために、「課題の設定」から「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった学習過程や配当時間、活動例を示した「鯨っ子学習のすゝめ」を配布した。15時間という限られた時数の中で計画的に学習を進めるうえで、非常に有用であったと言える。しかし、いざ自分の興味・関心から課題を設定するとなった時に、どういった課題を設定すればよいのか戸惑う児童の姿が見られた。さらに、「鯨っ子学習」が、各教科の学びで得た資質・能力を教科横断的に発揮する場であることを踏まえて、各教科と学びとのつながりをもたせることを重要にしたいと考えた。そこで、「課題の設定」にあたり、まずは自身が興味・関心をもっている教科

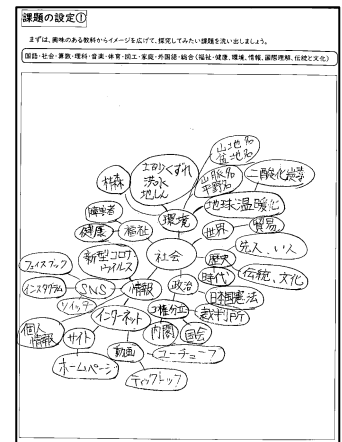


図1 イメージマップ

を中心に据え、イメージマップを広げる時間を設けた。関心のある教科からイメージを広げることで、各教科と実生活が結び付き、課題を見付けやすくなったようだった(図1)。図2からわかるように、本学級においては、体育科から課題を設定している児童が多く、興味のあるスポーツや、体の健康や病気の予防など、保健分野から課題を見付けた児童も多かった。また、歴史や自然現象への関心から課題を設定した児童や、栄養素や異文化についての課題を設定する児童など、それぞれの教科から課題を見付けることができていた。学習課題を設定した後は、その課題に対して、既存の知識や自身の経験を根拠にした仮説を立てる時間を設けた。また、全15時間を見通し、自ら学習計画を立てるようにした(図3)。仮説を検証するためにどのように学びを進めるのかを考えさせることで、課題が探求にふさわしいものであるかを吟味する児童の姿が見られた。

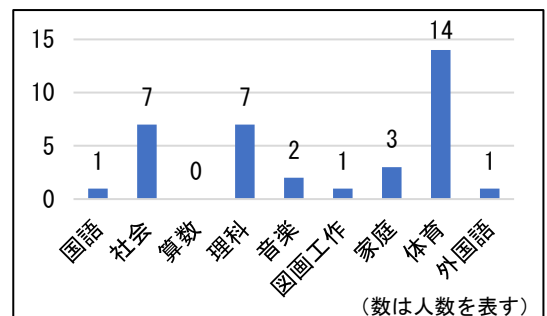


図2 興味・関心のある教科

(2) 情報の収集

情報収集の手段について、どのようなものがあるか、それぞれのメリット、デメリットについて話し合う時間を設けた。インターネットは手軽にたくさんの情報が手に入る反面、信憑性や引用の仕方に注

学習過程	全15時間	どのようにするか
課題の設定	一 二 三	
情報の収集	三 二 八	インターネットと、体育や保健の先生にインタビュー。 実験で制服と体操服。 どちらがいいのか。
整理・分析	九	フランクチャップリンの映画「モダンタイムス」を観る。
まとめ・表現	三 二 五	制服でいいのか?と問われている人の表情を表現する。 パンフレットか、レポートで、まとめる。写真と文で分かりやすく。

図3 学習計画

意する必要があることや、本は情報の信頼性が高くまとまった情報が手に入ることを確認したうえで、情報収集に取り組むようにした。図4から、ほとんどの児童がインターネットを活用しながらも、文献による調査やインタビューなど、複数の情報源から情報を集めていることが分かる。自分が必要な情報によって、効果的な収集の方法が異なることにも気付いていた。

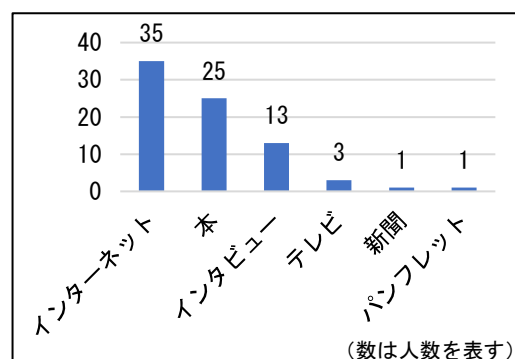


図4 情報収集の手段

(3) 整理・分析

様々な情報収集の手段を用いて集めた情報を、ノートに書き写しながら整理する児童が多かった。そこで、集めた情報の中で、課題の解決のために必要な情報を吟味し、内容を取捨選択して精選する時間を設けた。また、必要に応じて表やグラフ、思考ツール等を活用することで、より分かりやすく情報が整理できることを伝え、効果的な思考ツールを紹介した。児童のノートから、信頼できる情報源からグラフを引用して、そのグラフから読み取れることをまとめたり、他の情報と関連付けたりしながら情報を整理できていたことが分かる(図5)。

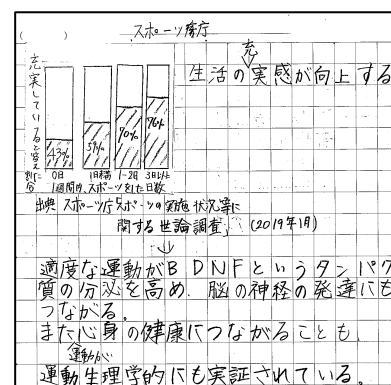


図5 児童のノート

(4) まとめ・表現

どのようにまとめ、発表するかは児童自ら選んで決めるようにした。プレゼンテーションソフトを使ってまとめたり、報告書を作成したり、ポスター形式にまとめたりと様々であったが、プレゼンテーションソフトを使った児童が最も多かった。図や資料の示し方や文字の大きさなど、モデルとなる成果物を紹介することで、提示する情報を精選して、相手にとって見やすい、分かりやすい資料にまとめることを心がける児童が多く見られた。まとめが完成した児童から友達と交流し、実際に伝えてみる場を設定した。互いにアドバイスをし合ったり、よいところを自分のまとめに取り入れたりしながら、よりよい発表になるように改善することができていた。発表の際には、写真を大きく提示したり、声の大きさや抑揚に気を付け、聞き手の方を見て話したりするなど、国語科で得た学びを生かす姿が見られた(図6)。

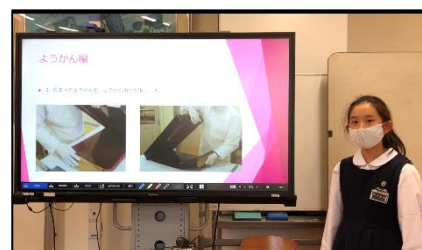


図6 学習成果の発表

3 実践のまとめ

(1) 実践の成果

- ・ 興味・関心のある教科からイメージマップを広げて課題を設定したことで、各教科で得た学びを生かしながら探究活動に取り組むことができた。
- ・ 情報収集の方法やそれぞれの特徴について話し合ったことで、様々な手段で情報を集め、多面的・多角的な視点で情報を取捨選択して整理しようとする姿が見られた。

(2) 今後の課題

- ・ 課題の設定の仕方、仮説の立て方については課題が残った。興味・関心があることを題材にすることで主体的に取り組むことはできたが、より質の高い探究活動にするためには、簡単に答えの出ない、深まりのある課題の設定が必要であろう。具体的な課題設定とそれに対する仮説を検証するという視点を意識させる手立てについて探していきたい。